

## 「秋の東北鉄道旅行 (12)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

新幹線が発達し、在来線特急に乗る機会はめったになくなった。東北地方でも在来線特急はほとんどなくなったが、今回はそれに乗れるのも嬉しいことである。



「特急つがる」の車両は窓が大きくて、眺望が良い。指定された席に座って弘前駅をあとにした。弘前駅～秋田駅間は約 150km ある。東海道線でいうと、東京駅～富士駅の距離に相当する。「つがる 2 号」は、弘前発 9:40、秋田駅着 11:45 なので約 3 時間の乗車となる。車内は混んでいた。半分ぐらいは「鉄道 150 周年フリー切符」の乗客で、親子連れ（父親と男の子）も何組も乗っている。私の後ろの席の親子も、この「ちがる号」に乗ることが旅行の主目的のようだ。そんな会話が聞こえてくる。



途中「ニツ井 (ふたつ井)」という小さな駅に停まった。一日の乗降客が 300 人にも満たない駅だが、特急停車駅なので、駅員さんもいる。とっくに特急は通過で、無人駅になっても良さそうだが、不思議な駅だ。

乗客のほとんどは秋田まで乗車するようで、3 時間もかかるので、次第に居眠りをする人が増えてきた。私は久しぶりに乗った、「秋の奥羽本線の車窓」にくぎ付けで、眠っているひまなどなかった。



秋田に向かって南下する奥羽本線の右車窓に、広大な人郎潟の水田が広がる。何も遮蔽するものがない風景の彼方に「寒風山 (かんふうざん)」が見える。寒風山は男鹿半島の付け根にある、標高 355m の小さな火山だ。私は二十年以上前に秋田駅からの定期観光バスで山頂まで行ったが、名の通り寒風が吹きつけていた。この日の奥羽本線車窓からの寒風山は、残念ながら山頂付近に雲がかかっていた。車内で大急ぎで画にしてみた。山頂はきっと寒かっただろう。



「秋のみちのく」を快走した「つがる 2 号」は、定刻に秋田駅に滑り込んだ。この列車はそのまま折り返しの青森行「つがる 3 号」になる。秋田駅は、奥羽本線、羽越本線、田沢湖線の在来線に加え、秋田新幹線も発着する、このあたりでは最大のターミナル駅だ。しかし、東京駅や新宿駅の、時には身動きがとれないほどの雑踏を見慣れているので、秋田駅のホームは閑散として見えた。サア、駅弁を買わなくては！